多摩大学

Rapport（ラポール）とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。
多摩大学広報誌「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐ
コミュニケーション誌です。

発行者／多摩大学　発行日／2021 年 3 月 30 日
東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1　TEL：042-337-1111　FAX：042-337-7103
https://www.tama.ac.jp/

GERONTOLOGY 高齢化社会工学

ジェロントロジーに取りくみ
大都市郊外型高齢化に
立ち向かう実践的研究

# Rapport

2021 Number 112

多摩大学｜広 報 誌｜

## Vol.112 Contents

2020 年度 第 12 回アクティブ・ラーニング 発表祭 …… 02
2020 年度 第 2 回 SRC …… 03
学生インタビュー …… 04
第 9 回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭 …… 06
アドバイザリーボード 開催 …… 06
2020 年度春学期 成績優秀者 …… 07
【経営情報学部】就職セミナー・後援会定期総会 …… 07
寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座XIV 2021年度春学期 …… 08
多摩地域の名所・旧跡⑨【絹の道】 …… 08

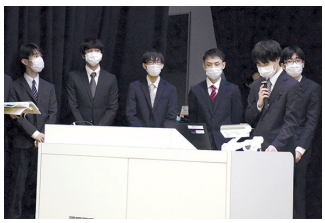
多摩キャンパス

# 2020 年度 第 12 回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭

アクティブ・ラーニング（AL）とは一般的に「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」と定義されています。多摩大学では AL の一環として様々な活動を推進しています。近年は高大接続の取り組みとして高校生による発表も取り入れ、その活動成果について広く学外の関係者の皆様をお招きしご報告の場を設けてきました。

今年度においても新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、多種多様なプロジェクト、研究、アクティブ・ラーニングプログラムを展開してきました。その活動成果を共有する機会として、2020 年 12 月 12 日に『第 12 回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭』を開催しました。毎年、地域の方々をはじめ、行政、企業、NPO、教育機関のたくさんの皆様にご出席いただき交流を深めてきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、例年より規模は縮小し関係者を対象とした開催となりました。【URL】https://www.tama.ac.jp/al2020/

| タイトル | | 発表者 |
|---|---|---|
| 世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2020 - コロナ禍における新たな取り組み（2020 年度大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」対象事業） | | 梅澤佳子ゼミ |
| 多世代交流 みんなの食卓プロジェクト 2020　－コロナ禍での課題解決の模索 | | |
| スポーツにおける価値創造とビジネスへの視点 | | 佐藤文平ゼミ |
| 観光業におけるニューノーマル模索取り組みの構造　－緊急報告－ | | 中庭光彦ゼミ |
| 夏休み特別企画「高大生のためのオンライン会社見学会」 | | 長島剛ゼミ |
| コロナ禍における日本のスポーツ業界の今後の在り方について | | バートルゼミ |
| 海外投資から見たアメリカの産業と日本の今後 | | 水盛涼一ゼミ |
| パンデミックのユーラシア史とポストコロナ | | インターゼミ（アジアダイナミズム班） |
| 2020 年代の日本の「観光立国」を考える —「安定」かつ「高付加価値」産業の構築は可能か— | | インターゼミ(サービスエンターテインメント班) |
| 次世代に届けたい多摩地域の在り方 —30 年後の次世代が住み続けたい多摩地域になるために— | | インターゼミ（多摩学班） |
| DX によるこれからの社会変化　～イノベーションを軸に～ | | インターゼミ（DX 班） |
| 飛騨高山 AL 地域観光研究・スキー場の活性化 | | 飛騨高山 AL プログラム（A チーム） |
| 飛騨高山 AL 地域観光研究・スキー場の活性化 | | 飛騨高山 AL プログラム（B チーム） |
| 飛騨高山 AL 地域観光研究・特産品開発 | | 飛騨高山 AL プログラム |
| IT 化する医療　～情報セキュリティのあり方～ | | 多摩大学目黒中学校・高等学校 |
| コロナ禍 今私たちにできること | | |
| サブスクリプション | | |
| 招待発表 | 言葉の力がつく！世界に一つだけの絵本づくり | 帝塚山大学　第 23 回ダヴィンチマスターズ |
| | 拝観券ホルダー「券葉集」開発プロジェクトの成果報告 | 帝塚山大学 「券葉集」開発プロジェクト |
| | 東経大・小木ゼミによる企業とのコラボ活動 ～国分寺物語、TFT、こんなお菓子あったらいいな PJ、知財活用スチューデントアワード 2020 ～ | 東京経済大学　小木ゼミ |



001 教室（大教室）での発表の様子

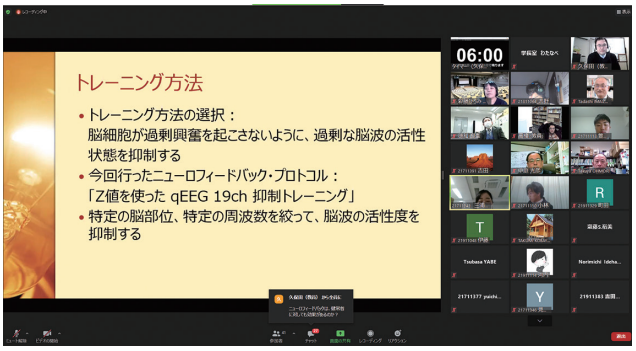
# 2020 年度 第 2 回 SRC（Student Research Conference）

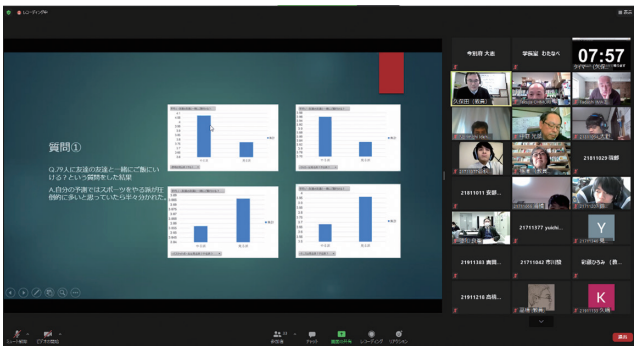
2021 年 1 月 29 日、多摩キャンパスにて「2020 年度 第 2 回 SRC（Student Research Conference）」が開催されました。

SRC は経営情報学部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年 2 回（夏・冬）行っています。今回は 1 月 7 日に発出された緊急事態宣言を受けて、Zoom によるオンライン開催となりました。前日には多くの学生が夜遅くまで学内に留まり発表の準備に追われ、当日は雪の降り積もる中、卒業研究も含め熱意にあふれた発表がそれぞれの自宅から発信されました。

（発表と質疑応答　M：10 分　L：15 分／発表件数：31 件　参加者数：145 名）　【URL】https://src.tama.ac.jp/

| 時間 | 名　前 | タイトル | ゼミ名 |
|---|---|---|---|
| L | 見米　雄太 | 動的なグラフを用いた日本国内における新型コロナウイルス感染者の視覚化 | 久保田貴文ゼミ |
| L | 市川　駿 | 新型コロナウイルス感染症のデータを用いた地域の感染リスクの視覚化と相関について | 久保田貴文ゼミ |
| M | 谷萩　優一 | R 言語を用いたインタラクティブなアプリケーションの実装 | 久保田貴文ゼミ |
| M | 平山　佳苗 | 若者の将来像について | 大森拓哉ゼミ |
| M | 篠原　洸 | 高速バスがもたらす経済効果と都市変貌 | 中庭光彦ゼミ |
| M | 小泉　翔太 | 2021 年の公共交通 | 中庭光彦ゼミ |
| M | 今別府　大志 | コロナ禍における観光の変化 | 中庭光彦ゼミ |
| L | 磯部　直樹 | コロナショックによるサードプレイス論の変化 | 中庭光彦ゼミ |
| M | 浦橋　大地 | 好きなスポーツからわかる性格特性 | 大森拓哉ゼミ |
| M | 町田　ひかる | オンライン学園祭運営記録 | 彩藤ひろみゼミ |
| M | 濱　大貴 | 多摩大オンラインクリスマス会の企画設計運営記録 | 彩藤ひろみゼミ |
| L | 萱嶋　諒介 | 多摩大生の精神的健康調査とニューロフィードバックの実践 | 良峯徳和ゼミ |
| L | 三浦　麻子 | ニューロフィードバックを 用いた脳波実験～てんかん症状をおさえてみた | 良峯徳和ゼミ |
| L | 住安　けんじ | 画像の好悪を脳波で計測する試み～ニューロマーケティング技術開発に向けて | 良峯徳和ゼミ |
| M | 佐々木　大成 | 日本の高齢化と地域活性化 | バートルゼミ |
| M | 三橋　一聖 | 食品ロス問題について | バートルゼミ |
| M | 町田　龍星 | 日本の自動車業界について | バートルゼミ |
| M | 野寺　充峻 | 今後の日米関係について | バートルゼミ |
| M | 小林　拓視 | イメージの因子分析 | 大森拓哉ゼミ |
| M | 安藤　七海 | イメージの因子分析 B | 大森拓哉ゼミ |
| L | 彭　麟 | よりいい社会を作るためのアイデアとその検証 | 大森拓哉ゼミ |
| M | 木村　もも | ストループテストについて | 良峯徳和ゼミ |
| M | 濱道　萌花 | メンタルローテーション実験について | 良峯徳和ゼミ |
| L | 大島　健太郎 | 音楽が脳波に及ぼす 影響に関する実験 ～ニューロマーケッティングの観点から | 良峯徳和ゼミ |
| M | 佐藤　直樹 | コロナ禍におけるエンタメ業界 | バートルゼミ |
| M | 六ケ村　晋之介 | コロナ禍における雇用状況に関する考察 | バートルゼミ |
| L | 井上　澪夏 | コロナ禍における日本のスポーツ業界の今後の在り方について | バートルゼミ |
| M | 麦倉　拓弥 | 脳波トレーニングによる 集中力強化の試みについて | 良峯徳和ゼミ |
| M | 割田　大輝 | micro:bit を使用したゲーム作成と RC カーシステム作成 | 良峯徳和ゼミ |
| L | 山口　雄平 | BCI（Brain-Computer-Interface）に挑戦 I | 良峯徳和ゼミ |
| L | 佐藤　哲大 | フリーソフトウエアを使ったニューロフィードバックシステムの設計・実装 | 良峯徳和ゼミ |




オンラインによる発表の様子

# 学生インタビュー

## 自分のやりたいことを追えた４年間

経営情報学部４年　中島 大地

中国テンセント本社にて。

高校生３年生の時に高校内で行われた進学説明会の際に多摩大学の教授陣はビジネス経験者が多数という環境に興味を持ち、「ビジネスを学ぶならここしかない」と2017年４月、私はこの多摩大学に入学した。

大学ではとても刺激的というか激務な毎日を過ごした。ノートパソコンと教科書をリュックサックに詰め込み、通勤電車に乗り９時スタートの１限に出席する。完全にサラリーマンでは？という生活を２年生まで続けていた。朝の１・２限で勉強をし、午後は趣味に注ぎ込んだり勉強をしたりと時間を自由に使えるようになり、今考えると有意義に過ごせていたと思う。講義や提出物がハードではあったが、休みが長い事が旅行好きな私としては嬉しかった。高校の夏休みは８月の末で終わってしまうが、大学は９月下旬まで休みがあり８月に行くと夏休み価格で高かった旅行も、値段がさがり２週間ほど海外を彷徨ったこともあった。特に大学在籍中に「行ってよかった」と思えるのはジャカルタに日本の鉄道車両を見に行ったことだ。地元を走っていた南武線の205系は私が生まれた時から主力車両であり、ＪＲ東日本の中でも南武線は最後までオリジナルの205系が残っており、そんな南武線が大好きで一度は205系の再就職先を見に行ってやるかという気持ちであった。ジャカルタはお世辞にもシンガポールや香港のように綺麗な街並みが揃っているというわけではないが、世界で２番目の規模を誇る都市である。街は工事だらけで、カートを引いたおじちゃんが紅茶やお菓子を売りつけてくる。地下鉄は走ってないし、本当に首都か？と思ったほどであるが、このような発展途上国が日に日に発展していく中で訪れることができたのはラッキーなのかもしれない。そんな街歩きで得た知見を所属したゼミでも十分に活かせたと振り返る。１年次に受けた講義の中で「寺島実郎学長のゼミへの参加」の話をいただいたので、最後の学生生活だし勉強に打ち込むのもいいかなと４年間地域の問題について真剣に勉強した。この経験は特に就活で問われる「ガクチカ」で話す内容や、自分で問題を解決する術を編み出す「問題解決力」の向上に大きく貢献し、このインターゼミがなければ自分はここまで成長できなかっただろう。

最後に私ごとではあるが、来年からの進路は地域の問題を情報技術で解決すべく通信業界で働くこととなった。これまでは「提案」で終わっていたのが、その先の「導入」まで自分の手でできるとなるとワクワクする。このコロナ禍で21卒は初めての就活を強いられ悔しい思いもたくさんした。一番行きたかった航空業界は新卒を取らないと宣言された。だけど諦めないで何度でも立ち上がったから今の結果があると信じている。これから大学生活を続ける人たちにはこの大学で積み重ねたものを忘れずに前へ進んで欲しい。「自分らしく大学生活を駆け抜けて」とエールを送る。

市役所で調査をする、取り調べの刑事のような私

B777のコクピットで記念撮影、飛行機の話ばかりしていたら「来なさい」と言われた。日本では中々経験できない。

## 記 憶

グローバルスタディーズ学部４年　成田 翔平

大学生活の振り返りとして二つのことについてお話をしたいと思います。一つは素敵な言葉。もう一つは全てを捧げたサークル活動です。

私は大学二年生の時に受けていた授業の中で素敵な言葉に出会いました。その言葉とは『先を読んで点と点をつなぐことはできません。後からふり返って初めてできるわけです。したがってあなたたちは、点と点が将来どこかでつながると信じなければなりません。自分の勇気、運命、人生、カルマ、何でもいいから、信じてください。点がやがてつながると信じることで、たとえそれが皆の通る道からはずれても、自分の心に従う自信が生まれます。これが大きなちがいをもたらしてくれるのです。』この言葉はスティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式で話した３つのストーリーのひとつです。私は大学生活を通して、サークル活動やオープンキャンパススタッフ、教職課程、TA(Teacher Assistant)、海外旅行などのたくさんの『点』と多摩大学に入学し四年間を通して出会うことが出来ました。今後、どの様なタイミングや形で点と点が繋がるかは正直わかりません。ただ、ひとつ確実にわかることとすれば、多摩大学には『点』を増やすことが出来る環境やチャンスが多くあるということです。卒業生や先輩方とお話しする機会が多くありました。皆さんが言うのは多摩大学での学びや活動が卒業後の人生に大きく関わっていることです。在学生やこれから多摩大学に入学する新入生にはたくさんの『点』と出会い、成長し、活躍して欲しいと思います。

私は、大学二年生から二年間の間『Realize』というサークルに所属していました。国際交流と親子英語教室を活動の柱として活動していました。学内での活動では留学生との交流や学園祭では来場者向けの親子英語教室などを開催していました。また、学外ではふじさわ産業フェスタに大学を代表して参加したり、地域の保育施設や学童クラブとの活動がありました。その中で一番の思い出は素晴らしい仲間に出会え、貴重な経験をさせてもらえたことです。後輩には私たちが出来なかったことや新しい挑戦に取り組み、より良いサークルにしていってほしいです。

卒業後は皆がそれぞれの道で、もがき苦しむことになると思います。ですが、大学生活で学んだことや得たことを忘れずに進んでいきたいと思います。

タイ旅行（Wat Paknam にて）

学生主体のオープンキャンパス運営

思い出いっぱいのサークル活動

# SGS での 4 年間

グローバルスタディーズ学部 4 年　増田 椋

「周りにあるチャンスは逃さない。」

私の SGS での 4 年間を、自ら行動を起こし、その行動が生んだチャンスを活かして過ごしてきました。

その 4 年間を象徴するような出来事があります。それはシンガポールへの交換留学です。

留学中フィールドワークでスタッフとして
参加した FinTech Festival

私は 1 年生の春休みに 1 週間のシンガポール研修に参加をしました。

シンガポールには何度か旅行で訪れたことがあったのですが、普通の旅行では体験できないようなことをしてみたいといった気持ちで研修に参加することを決めました。

研修では現地の学校ナンヤンポリテクニックの学生との交流や、ホテル訪問など、今までの旅行とは違うシンガポールを体験することができ、とても満足することができました。満足することができたのと同時に 1 週間では物足りないという気持ちが芽生えてきました。

その思いを帰国後の課題レポートに書いて提出したところ、国際交流課の方から長期留学のお話を頂きました。これ以上のチャンスはないと思い、長期留学に行くことを決めました。

初めて実家を出て一人で生活をし、現地の学生と同じ授業に出席、ディスカッションをする中で、様々な国からの留学生と交流を深めることができました。

これらの経験を通して、長期留学は私に新しい視野と、今も続く最高の友人を与えてくれました。

もし、長期留学というチャンスを捨てていたら、もし、シンガポール研修に参加するという行動を起こしていなかったら、この SGS での 4 年間を充実させることはできなかったと思います。

心の底から「周りにあるチャンスは逃さない。」ように過ごしてよかったと思います。

今も連絡を取り合う最高の仲間

# SGS 初の教員採用試験現役合格

グローバルスタディーズ学部 4 年　佐藤 陽奈

私は、令和 2 年度の横浜市教員採用試験（中学校英語科教員）に現役（SGS で初の）で合格することができました。この合格は言葉では伝えきれない程嬉しいものです。この結果は人との出会いや様々な奇跡の連続が導いたものだと思っています。

まず私は多摩大学 SGS で教員免許状を取り教員になるために入学したと言っても過言ではありません。大学 1 年の 4 月には教員を志望し、その考えの下、教職課程を取りました。また大学の講義は、これからの教員に求められるであろう、資質を高めるため、国際的な内容の授業を積極的に受けました。さらに、生徒との関わり方や話し方を学ぶため集団授業を行っている学習塾でアルバイトを 4 年間し続けました。

大学生活は教員になるための 4 年間と考え、迷うことなく自分の目標と向き合いました。このことが教職課程や、今回の結果に結びついたと考えており、大きく 2 つの理由があります。

1 つ目は、学習塾でのアルバイト経験が英語科教育法の授業や教育実習などで役に立ちました。英語科教育法では、アルバイト先での集団授業が役に立ちました。学習塾では集団授業を行います。授業は大学のプレゼンではありませんので、今まで学生だった私たちが急に授業を行うことは簡単ではなく、一方通行になりがちです。しかし、私は大学 1 年から中学生を相手に集団授業を行っていた経験があったので、授業を展開することにそれほど苦労することはありませんでした。また、学習塾で普段から文法指導をしていたおかげで、改めて中学文法を学び直す時間が省けました。さらに、教育実習では「他の実習生より生徒との関わり方が分かっている。」など、多くの先生方にお褒めの言葉をいただきました。これは、塾で 4 年間中学生を相手に授業を行い、授業外でもたくさんのコミュニケーションをとってきた経験が、活きたと思っています。

2 つ目は、よこはま教師塾「アイ・カレッジ」を知ることができたことです。私は、早い段階で教員採用試験を受ける地域を決め、関係者に伝えていました。そのため教務課の方から教師塾の案内を受けることができました。この情報が今回の結果に大きく関わっています。

教員採用試験の対策については、新型コロナウイルスの影響で例年と受験内容が変更されたこと、教師塾卒塾による一次試験の免除を受けたこと、を伝えておきます。試験対策は大学と外部に分けて説明します。大学では、現場経験の豊富な教員にとてもお世話になりました。教師は英語力だけがあればいいわけではなく、現場でのキャリアがあるほうが教員採用試験対策に説得力があると思ったからです。試験に関するもの全てを教授に伝え、手厚く対策していただきました。外部では、「アイ・カレッジ」で大学だけでは学べない事を学び、さらに、中学校でのボランティアを行い、現場の経験を積みました。

最後に、後輩の皆様へ。自分が教職課程をとっている意味をもう一度考えてみてください。そして、現役で教員採用試験に合格したいと思うなら、どんな方法で受験することが自分に合っているか調べてみて下さい。私は 3 年の教師塾入塾試験対策から大学の教員に頼り、教師塾で出会った先生や指導主事、仲間に助けられて今回の現役合格という結果を手にできたと思っています。私は夢だった教員としてこれから頑張っていきます。皆さんも自分の夢のために頑張って下さい。

教育実習で授業をしている様子

大学生活 4 年間、共に教職課程を乗り越えた仲間たち

## 第 9 回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭 ～アクティブ・ラーニングの実践事例～

2021 年 2 月 20 日、多摩大学と「学術交流に関する包括協定」を締結している帝塚山大学の東生駒キャンパス（奈良県奈良市）にて、「第 9 回『実学の帝塚山大学』実践学生発表祭 ～アクティブ・ラーニングの実践事例～」が開催され、本学のインターゼミ（社会工学研究会）「サービス・エンターテインメント班」（学生 2 名）と「DX（デジタル・トランスフォーメーション）班」（学生 2 名）が参加しました。

「サービス･エンターテインメント班」は「2020 年代の日本の「観光立国を考える」－「安定」かつ「高付加価値」産業を構築するには－」、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）班」は「DX によるこれからの社会変化～イノベーションを軸に～」をテーマに、ゼミで 1 年間積み上げた研究成果を発表しました。

帝塚山大学は昨年 12 月 12 日に本学で開催した「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」に参加し、研究発表を行っています。多摩大学と帝塚山大学は、このような研究発表を軸に学生と指導教員が毎年交流を深めており、互いに切磋琢磨する貴重な機会となっています。

サービス･エンターテインメント班

DX班

講評（バートル教授）

## アドバイザリーボード 開催

多摩大学では、2021 年 2 月 12 日にアドバイザリーボードを開催しました。アドバイザリーボードとは、本学の全学部・研究科の教育課程の編成及び産官学民連携を通じた教育効果の方針について、産業界より複数の識者をお招きして助言をいただき、本学の施策に反映することを目的に開催するものです。はじめに寺島実郎学長より本学全体の方針について話があり、その後、本学の課題や地域連携、グローバル化に向けてボードメンバーと活発な意見交換を行いました。ボードメンバーからは、地元企業との連携強化の重要性や欧米との比較を交えながら助言をいただきました。多摩大学では、学外の方々の意見等を今後の取り組みに反映させ、本学ならではの強みを生かし、魅力ある大学としての取り組みを進めていきます。

**【アドバイザリーボードメンバー】**（順不同）
- 多摩信用金庫理事長　八木 敏郎 様
- 城南信用金庫理事長　川本 恭治 様
- かながわ信用金庫専務理事　下境 秀実 様
- ソフトバンクグループ CEO プロジェクト室長　三輪 茂基 様
- トランスコスモス株式会社 上席常務執行役員　河野 洋一 様
- 株式会社学研メソッド 代表取締役会長　千代延 勝利 様

**【多摩大学】**
- 学長　寺島 実郎
- 学長室長　小林 英夫（司会）
- 副学長兼経営情報学部長　杉田 文章
- 副学長兼グローバルスタディーズ学部長　安田 震一
- グローバルスタディーズ学科長　新美 潤
- 大学院研究科長　河野 龍太
- 事務局長　宮地 隆夫

メンバーの意見交換

本学の方針を説明する寺島学長

# 多摩大学 2020 年度春学期 成績優秀者

## 2020 年度 春学期 成績優秀者奨学金奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の規範となる学生に対して、多摩大学奨学金規程に基づき審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

### ●経営情報学部

■ 1 年次

・区分 1

| 学生氏名 |
|---|
| 尾崎　真由子 |
| 小松　優菜 |
| 丸山　将平 |
| 溝尻　冴夏 |

・区分 2

| 学生氏名 |
|---|
| 鈴木　一誠 |
| 鈴木　雄登 |
| 信田　修吾 |
| 萩原　悠介 |
| 廣野　祐太 |
| 藤原　由翔 |
| 松川　正輝 |
| 米澤　珠巳 |
| 渡邉　朋花 |

■ 2 年次

・区分 1

| 学生氏名 |
|---|
| 佐々木　秀崇 |

・区分 2

| 学生氏名 |
|---|
| 生田　侑己 |
| 石川　光一 |
| 伊豆　隆磨 |
| 今井　茉那 |
| 内田　慎吾 |
| 梶本　凌平 |
| 小泉　翔太 |
| 小林　明日香 |
| 佐野　有美 |
| 杉立　汐里 |
| 杉山　直哉 |
| 鈴木　景喬 |
| 田中　千尋 |
| 蜂谷　孔彬 |
| 濱　大貴 |
| 眞野　朱音 |
| 餘野　央果 |

■ 3 年次

・区分 1

| 学生氏名 |
|---|
| 味蓼　恵月 |

・区分 2

| 学生氏名 |
|---|
| 石原　滉大 |
| 石本　明子 |
| 磯部　直樹 |
| 伊東　真由 |
| 大内　翼 |
| 神谷　怜音 |
| 河崎　千晏 |
| 佐保　尚寿 |
| 茂山　友也 |
| 清水　大那 |
| 庄司　剛 |
| 菅原　侑士 |
| 松井　海人 |
| 光瀬　千翔 |
| 三好　真以 |
| 村田　月夜 |
| 柳　瑛登 |
| 山岡　義史 |
| 和田　彩佳 |

### ●グローバル・スタディーズ学部

■ 1 年次

・区分 1

| 学生氏名 |
|---|
| 世安　爽愛 |

・区分 2

| 学生氏名 |
|---|
| 井　歩夢 |
| 石川　音和 |
| 大髙　ももな |
| 川口　智也 |
| 佐々木　悠舞 |
| 佐野　磨李 |
| 滝川　夏綺 |
| ﾁｬﾝ ﾎｱﾝ ﾌｫﾝ ﾀｵ |
| 福島　愛海 |

■ 2 年次

・区分 1

| 学生氏名 |
|---|
| 関口　楓 |

・区分 2

| 学生氏名 |
|---|
| 石田　聖里奈 |
| 小山田　桜 |
| 金子　朱利 |
| 川口　愛未 |
| 楠原　鉄平 |
| 芳賀　京佳 |
| 平野　李織那 |
| 宮良　あこ |

■ 3 年次

・区分 1

| 学生氏名 |
|---|
| 和田　竜弥 |

・区分 2

| 学生氏名 |
|---|
| 遠藤　日向 |
| 加藤　とまむ |
| 河内　菫 |
| 佐藤　雪乃 |
| 内藤　歩 |
| 野間　海斗 |
| 林　陽人 |
| 吉村　優梨亜 |
| 渡邉　菜央 |

※氏名 50 音順

※学年は 2020 年度のものとなります

## 経営情報学部　「就職セミナー・後援会定期総会」開催

2020 年 11 月 22 日、多摩キャンパスにて経営情報学部「ご父母のための『就職セミナー』・後援会定期総会」を開催しました。今年は、会場入口での手指の消毒、ソーシャルディスタンスを確保できる 001 教室（大教室）の使用など、新型コロナウイルス感染症防止対策に配慮した上での実施となりました。当日は教育セミナー、後援会定期総会の後、事前申し込みをされた保証人の方々を対象に教職員との個別相談を行いました。

会場の様子

**1. 多摩大学の就職実績、就職支援体制について**　　副学長・経営情報学部長　杉田 文章

「『現代の志塾』の『現代』とはアジアダイナミズムと IT 革命、『志』とは社会の不条理の解決のために自ら職業や仕事を通じて貢献すること、『塾』とは人間的な触れ合いによる少人数制ゼミを中心とした『手づくり教育』である」と多摩大学の教育理念を解説。「実学重視のカリキュラムには実際性、国際性を反映、1 年生は『社会人マイナス 4 年生』を意識して組み立てている。また 1 年生から 3 年生まで学ぶキャリア教育、ゼミ担当教員とキャリア支援課・学生本人の三者連携による就職支援体制が強み、キャリア関連プログラムは多くの学生が履修している」。さらに近年の就職状況を報告し、卒業後も見据えた多摩大学における支援体制の方向性についても説明しました。

杉田文章副学長･経営情報学部長による講演

**2. 保護者のための就職セミナー　「コロナ禍での採用活動への影響と今後の見込み」**

**株式会社文化放送キャリアパートナーズ　就職情報研究所 所長　平野 恵子 氏**

平野氏は、「大学生から社会人への接続」をテーマに大学低学年から新入社員までの若年層キャリアが専門。学生のキャリア支援と企業の採用支援の両面に関わる。人事系専門誌や雑誌などにコラムやレポートを執筆。現在、読売新聞「就活 ON！」にて相談室コラムを担当中。2006 年より複数の大学でキャリア教育科目（正課）を担当。当日の講演では、「リアルな就職活動スケジュール、リアルな採用環境（売り手から買い手へ）、インターンシップと採用の関係、オンライン就活の特徴と対策、その他 Topics（AI に代替えされない仕事、など）、保護者の支援スタンス」について講演、新型コロナの影響下における採用環境や働き方の変化を語り、就職活動へのアドバイスをしました。

平野恵子氏による講演

個別相談の様子

多摩大学 寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座XIV 2021年度春学期

# コロナを超えて―世界認識を深める

コロナの教訓とは何か。正しい情報を認識する知の基盤の構築に役立つ講座が必要である。
苦しい時代、課題解決の前提は知の再武装である。

【会場】多摩キャンパス 001 教室　【時間】14：50 ～ 16：10　【受講料】一般 13,000 円（全 12 回分）
特別割引受講料 11,000 円　＊**多摩大学後援会会員**、多摩市および稲城市の在住･在勤者、他大学学生、多摩大学卒業生･大学院修了生
【インターネット（オンデマンド）受講料】10,000 円　【ライブビューイング受講料】6,000 円（湘南キャンパス）（定員：80 名）
【録画放映受講料】6,000 円（東京都心サテライト）各回終了 2 日後土曜日 11:00 ～ 12:20　（いずれも全 12 回分）
【主催】多摩大学　【後援】多摩市、多摩信用金庫　【監修】寺島実郎（多摩大学学長）【HP】https://www.tama.ac.jp/relay/

| | 開講日 | 講師（敬称略） | 肩書・役職等 | テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 月 15 日（木） | 寺島 実郎 | 多摩大学 学長<br>（一財）日本総合研究所 会長 | 「ポスト・コロナに向けての時代認識」 |
| 2 | 4 月 22 日（木） | 真壁 昭夫 | 法政大学大学院政策創造研究科 教授 | 「世界経済の行方と金融市場動向」 |
| 3 | 5 月　6 日（木） | 藤原 帰一 | 東京大学大学院法学政治学研究科 教授<br>東京大学未来ビジョン研究センター センター長 | 「グローバリズム退行のなかにおけるリベラリズムの将来」 |
| 4 | 5 月 13 日（木） | 礒﨑 敦仁 | 慶應義塾大学 准教授 | 「北朝鮮とどう向き合うか」 |
| 5 | 5 月 20 日（木） | 水盛 涼一 | 多摩大学経営情報学部 准教授 | 「変わりゆく中国内政 ―政策・企業・教育―」 |
| 6 | 5 月 27 日（木） | 寺島 実郎 | 多摩大学 学長<br>（一財）日本総合研究所 会長 | 「日本人の魂の基軸を求めて ―世界宗教史研究」 |
| 7 | 6 月　3 日（木） | 坂村 健 | 東洋大学情報連携学部（INIAD）学部長<br>東京大学 名誉教授 | 「DX（Digital Transformation）とは何か」 |
| 8 | 6 月 10 日（木） | 桜田 一洋 | 国立研究開発法人理化学研究所 先端データサイエンスプロジェクト プロジェクトリーダー | 「AI から拡張知性（EI）へ ～全体知への挑戦～」 |
| 9 | 6 月 17 日（木） | 星　浩 | 政治ジャーナリスト | 「日本政治とメディア　現状と課題」 |
| 10 | 6 月 24 日（木） | 出原 至道 | 多摩大学経営情報学部 教授 | 「人工知能との付き合い方 ～流行に踊らされないために～」 |
| 11 | 7 月　1 日（木） | 元村 有希子 | 毎日新聞 論説委員 | 「鳥の目　虫の目　科学の目」 |
| 12 | 7 月　8 日（木） | 寺島 実郎 | 多摩大学 学長<br>（一財）日本総合研究所 会長 | 「2021 年夏、日本のポテンシャルとは何か」 |

【お問い合せ】多摩大学寺島実郎監修リレー講座事務局　TEL：042-337-7300／FAX：042-337-7103　Mail：relay@gr.tama.ac.jp

地域再発見

多摩地域の名所・旧跡 ⑨

# 絹の道（八王子市）

## 八王子と横浜をつなぐ生糸商人らが往来した道

横浜開港後の日本で最大の輸出品は生糸でした。八王子周辺地域から集められた生糸は原町田を経由し横浜港まで運ばれました。このルートは「浜街道」「神奈川往還」と称され、現在は「絹の道」と呼ばれています。慶応元年（1865）建立の道標の中央には「此方 八王子道」、東面に「此方 はら町田･神奈川･ふじさわ」、西面に「此方 はし本･津久井･大山」と刻まれ行先を示します。

幕末から明治 20 年代頃まで、生糸取引で巨額の財を得たのが「鑓水商人」といわれる人々でした。その一人、八木下要右衛門の屋敷には当時 50m に及ぶ石垣があり、屋敷跡に建つ「絹の道資料館」の石垣に今もその一部が残ります。開港後、東の多摩川、西の酒匂川を境に横浜港の十里四方（約 40km）まで外国人が自由に行動できる「遊歩区域」が設定されました。最奥の八王子にも商売や観光目的の外国人が往来するようになり、ドイツ人のシュリーマンやイギリス外交官アーネスト・サトウなども訪問し旅行記に記しました。八木下要右衛門屋敷の南隅には、螺旋階段を設けた外国人接待用の異人館があったといわれます。1908 年には「絹の道」と重なるように横浜線が開通、御殿橋のたもとから「絹の道碑」までの約 1.5km は市の指定史跡、当時の面影を残す鑓水山中の未舗装部分は文化庁の「歴史の道百選」に選定されました。

絹の道資料館

絹の道

小泉家屋敷(東京都指定有形民俗文化財)

鑓水の道標

※多摩大学において「多摩地域」とは、多摩川と相模川に挟まれた大きな三角地帯、さらに三浦半島なども含めたエリアを広域多摩地域と捉えています。

Rapport No.112
発行：多摩大学　〒 206-0022　東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1　TEL:042-337-1111　FAX:042-337-7103
E-mail：rapport@gr.tama.ac.jp　URL：https://www.tama.ac.jp
制作・印刷：株式会社 インフォテック　発行日：2021 年 3 月 30 日